

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) グループホーム サン ひまわり
虹 (1階)

所在地
(県・市町村名) 鹿児島市下伊敷1丁目44番11号

記入者名
(管理者) 管理者 斉野 カツ子

記入日 平成 20 年 6 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「知恩報徳」のもと、地域の一員として地域との交流を大切に、家庭的な雰囲気的生活支援を一人ひとりが確認し理念を作っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や分科会などで理念を復習し、一人ひとりが実践に取り組んでおり、日々のサービスに反映している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関の掲示板に運営理念を掲示しており、家族や来客の目に留まるようにしている。又、ホーム便りを発行し家族へ送付したり、町内会にも回覧板にて、ホームの催しや生活のようすを紹介している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買物や散歩の途中、行き交う人々と挨拶を交わし会話している。又、玄関は開放して気軽に立ち寄っていただけるように声かけしている。防災訓練実施前は挨拶に回り関係作りに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会応援や町内会の一員としておはら祭りに参加、また公民館活動のゴキブリ団子作りや、リボン風鈴作り、ハンドベル演奏会等にも利用者と共に参加して、地域との交流に努めている。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々が気軽に相談出来る様に、相談窓口を設置し担当者が速やかに対応している。又、人材育成として実習生の受け入れや町内会行事に参加したり、2ヶ月に一度の推進会議を利用し感染対策などの助言を行っている。現在、近隣の高齢者に行事の時に声かけし1名参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価は職員全員で取り組み、改善策を検討し実施につなげる為に努力している。改善記録や改善シートを作成し活用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果や入居者の現状報告(事故報告書、ヒヤリハットを含む)を行い、参加者からの意見や助言を受け改善につなげている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを作成し現状や取り組みを伝えたり、諸手続きなど利用者と共に行く機会を多くつくり、アピールし情報なども得ている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内や外部での研修に参加し、学んだ事はGH勉強会を開き他の職員にも分かる様にしている。現在必要な人はいないが必要な場合はできるように支援していく。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会参加やGH勉強会を実施、褥瘡や皮膚剥離、長時間の車椅子移乗、言葉使い、無視なども虐待にあたることを認識し一人ひとりが取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人、家族の生活状況を詳しく把握し、他のサービスで対応可能なら地域包括センターや他のサービス事業所と連携を取りつなげている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に本人、家族に見学してもらい入居者とお茶を飲んでいただき、雰囲気を体験してもらっている。やむを得ず見学なしで利用者になった場合は、家族の面会や家族へ電話をかけ会話してもらい安心感を持たせている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理の下ごしらえや洗濯物たたみなど得意とするものを見極め、職員と一緒にいきなり意欲をもたせている。また洗濯物を干す時衣類をたたいてアイロンは要らないことなど利用者に教えられることもある。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事には家族の参加を呼びかけ利用者と一緒に食事し楽しんでもらっている。参加出来ない家族には電話で会話してもらい、写真を同封し行事などの様子を知らせている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の来訪時には、近況を知らせ居室で一緒にお茶を飲み過ごして頂ける様に配慮し、良い関係が保てるようにしている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の知人が尋ねて来た場合には、お茶を出しゆっくり過ごせる雰囲気作りをし、関係が継続するように支援している。また行き付けの美容院などへの送迎を行い関係作りを保てるよう行っている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>全員が参加できるレクリエーションなどで、仲良く過ごせる様に工夫している。又、トラブル発生時などは職員は調整役となり、それぞれの言い分を十分聞き納得されるように話合っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先に訪ね利用者、家族の精神面のフォローを行い関わりを継続している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや要望の把握に努めている。困難な利用者は家族から情報を得たり、表情や体動などにより職員間で話し合い検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で本人、家族からこれまでの生活歴や利用の経過などを聞いている。又、入居後少しずつ本人や家族の話の中から把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの1日の過ごし方と出来る事を把握し、出来ない利用者の洗濯物たたみや繕い物などをしてもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から要望を聴き、要望に沿ってより良いケアをするために、日頃の関わりの中で課題を職員全員で話し合い介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価を行い、本人、家族の要望を取り入れ、期間が終了する前に見直しを行っている。状態変化時にはその都度見直しを行っている。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄等の心身状況や日々の暮らしの様子、言葉等の記録を行い、また申し送りノートで全ての職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況などに応じて、買物同行や美容院送迎、受診同行、受診送迎などを行っている。また医療で導尿が毎日必要な利用者に対して訪問看護を利用し入院が回避できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の派出所や消防署、民生委員などいつでも連絡が取れる体制にある。屋内外行事やレクにボランティアの協力を頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて歯科往診、NPOヘルパー利用、訪問理容サービス、美容室の利用、法人内温泉入浴等の支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、情報交換など良好な協力関係を築いている。また利用者に権利擁護などの必要性が出てきた場合は協力を得ていく。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。又、協力病院と医療連携体制をとり、24時間体制で急変時には対応できる体制もできている。希望により訪問歯科診療も利用している。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に専門医が常駐しており、認知症についての指示や助言をもらっている。又、医師の来訪もある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が毎日の健康チェックを行い、又医療連携体制にある協力病院の看護師による状態観察と健康管理を行い気軽に相談できている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には情報を提供している。又面会の機会を多くもち不安の軽減と状態把握をおこなっている。協力病院との医療福祉連携調整会に参加し早期退院に向けて情報交換を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を定め、家族や本人の思いに配慮し、協力病院や職員と対応できるケアについて必要時話し合っ て行く予定である。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向を踏まえ、協力病院と連携をとり安心して終末期を迎えられるように話し合う予定である。又、急変時は協力病院との医療連携により24時間体制が確保されている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの支援の内容や身体状況、こだわりなどの情報を詳細に提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や分科会時、職員の意思向上を図るようにしている。又、利用者の誇りやプライバシーを大切に丁寧な言葉使いで対応に努めている。職員間の個人に対する情報交換は事務所内で行い、個人記録は事務所に保管している。またトイレのドアを開めることや失禁時など、さりげなく誘導している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴の順番等、くじ引きで決め一人ひとりが納得できるように対応に工夫をし利用者が選べる場面作りをしている。また相談しやすい雰囲気作りや声かけを行っている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事、日中など本人のペースで過ごせるように対応している。又、買物やドライブ、散歩等は体調をみて対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月地域の理容院に来てもらい、カットの長さ等本人自身が決めている。また行き付けの美容院のある利用者には送迎を行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けなどできる利用者と一緒に、テレビを消して味付けなど話題にしながら一緒に食事している。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査や食事の会話の中から嗜好を把握し対応している。又、糖尿病の利用者のおやつは家族の意向も聞き対応している。	

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンを把握し食事前後やおやつ、入浴前後、夜間等の声かけ誘導を行い、失敗したときはさりげなく誘導し、他の利用者に分からないように配慮している。又、毎日排便チェックを行い、排便の把握をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴希望を確認し、利用者のわだかまりを無くする為、くじ引き等で順番を決めたり、浴槽に浸かる時間も本人の満足度に合わせている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、不眠がちな利用者は日中は散歩や皆と過ごすような対応している。また夜間寝つけない利用者には夜間も好きなテレビを観たり、お茶等飲みながら会話し心が安定するように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、掃除、洗濯物干し、たたみなど個々の利用者のできることを職員と一緒に楽しく行っている。終わったら感謝の言葉かけを行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている人、事務所で管理して預かっている人、それぞれ職員と一緒に買物に行き本人の財布より出し入れしてもらっている。又、家族の来訪時に出納帳、領収証の確認をしてもらい確認のサインをもらっている。県外居住の家族には毎月出納帳コピーと領収書を送付し確認のサインをもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調などに合わせて散歩を行っている。歩行困難な利用者には車椅子で地域の公園や短大などに出かけている。又、買物の帰りにドライブしたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい場所などを聞き取り、中央駅や磯、天文館などへのドライブを行っている。又、家族と共に長時間の外出や家族が県外居住の利用者にはNPOヘルパーを利用し長時間の外出が出来るように支援している。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルできる利用者は本人に掛けてもらい、ダイヤルできない利用者には職員がダイヤルし本人と話してもらっている。又携帯電話を持ち知人と気軽に電話されている。毎月写真を貼り本人と職員で近況を知らせている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来訪しやすい雰囲気づくりを心がけている。訪問時間は定めず職員もいつも笑顔であることを心がけている。又、居室やソファなどで一緒にお茶を飲んで過ごしていただけるよう配慮している。息子さんが勤務の都合で夜9時過ぎに来訪されるが遠慮なく来ていただけるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する法人内の勉強会の参加や定期的にGH内で勉強会を開き身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけず家族や地域の人気軽に出入りできるようにしている。又、無断外出の可能性のある利用者は常に居場所の確認を行い、外出傾向時は散歩に誘っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関正面に事務所があり、玄関、食堂の様子が把握でき、又、調理しながら廊下や食堂の様子が一目でわかる作りとなっている。夜間帯は巡視を行い、全居室が見通せる廊下のソファで休息をとり安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみなど一人ひとりに応じて対応している。また嚴重に保管すべき物、注意が必要なものなどに分けて管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の共有認識とヒヤリハットの記録、事故発生時は病院、家族への報告を行い、事故報告書を作成、検討し事故防止に活かしている。又、誤嚥しやすい利用者には食事形態や食材などに工夫をしている。誤薬防止に本人と薬の確認を行い声を出して名前を呼び確認している。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生対応マニュアルを見やすいところに貼っており、緊急時はマニュアルに沿って対応している。又、救急隊指導のもと急変時の勉強会を5月12日に実施した。今後も年に2回定期的を実施していく。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の防災訓練を実施しマニュアルの確認を行っている。災害時の避難場所も決めてあり、年2回消防署との総合防災訓練を行い、訓練当日は近所への挨拶を利用者と共に行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクの対応策を話し合い、抑制感のない暮らしの取り組みを家族を含めて行っている(無断外出、転倒等) 又、個別に見直しを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックや入浴時の皮膚観察を行い、異変時は協力病院の指示と家族への連絡を行い、早めの対応を行っている。又、個人台帳に記録し朝夕の職員間の申し送りとし送りノートで全職員にわかるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献ファイルにより、利用者の薬の目的などを理解し把握している。又、薬の変更時は必ず申し送りノートに記録し全職員は見るように決められている。服薬時は本人に手渡し服薬確認を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便確認、かかりつけ医による下剤服用、腹部マッサージ、食材に繊維のある根野菜などを摂り入れ、水分補給や運動などを実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、見守りやできない部分は一部介助している。又、歯科衛生士の資格を持つ職員により指導確認も行っている。また拒否の強い入居者には洗口剤を薄めてうがいを実施している。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食1400カロリー、糖尿食1200カロリーを目安にし食事摂取量のチェックを行い記録に残している。水分摂取1000～1500を目標に入浴後、お茶の時間に水分補給に努めている。又、法人の管理栄養士に献立表を見てもらい、アドバイスを受け栄養バランスにも配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について、勉強会や細かくマニュアルを作成し全職員が予防対策に努めている。ノロウイルス対策としてペーパータオル、ハイター消毒などの予防も行っている。毎年、利用者、職員共にインフルエンザ予防接種受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんなど每晚漂白し、冷蔵庫内の賞味期限切れ、野菜の新鮮度のチェックや手洗いなど職員全員が清潔に努めている。野菜、肉魚類や牛乳などは、その都度発注し、肉魚類は当日配達して貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口のプランターに季節の花を植え、玄関には季節の花を飾り明るい雰囲気作りに努めている。又、テラスにはプランターに季節の花やナス・キュウリ等を植え利用者が楽しめるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木目調で、床張りは衝撃を和らげるクッション感覚に仕上げられ、温もりを感じられる。浴室も家庭と同じ作りで一人ずつ、ゆっくり入浴できている。居室や廊下などの照明は調整できるように配置されている。又、換気・室温(外気より5 以内)など各居室を訪室し気配りしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置き利用者同士くつろげる場となっている。食堂では本や新聞を読んだり、テレビを見たり思い思いに過ごされている。		

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の馴染みのあるテレビや家具、椅子、習字道具、仏壇などが持ち込まれ、居心地良い居室になっている。又、家族などの写真をボードに貼り、安心して過ごされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は十分される構造となっている。居室、食堂、トイレなどの換気、消臭に細かく気を配っている。廊下の中央に温度湿度計を置き、調整を適切に行っている。また乾燥予防に洗面器に水をはり居室に置いたり、濡れタオルをかけて工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内に手すりを設置し、食堂や廊下の床張りはクッション風で歩いて柔らかい感触にしてある。居室の床は水分を吸収して転倒防止のためにコルク調の素材が使用されている。洗面台の湯の温度も適温に設定し、身体状況に対応出来る様にエレベーターも設置してある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室、トイレは動線上の分かり易い場所に設置され表示もしてある。又、居室には本人家族の同意のもと、名札や本人の好みの物を目印に付けて分かり易くしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに季節感のある花やナス・キュウリを植え、菜園には季節の野菜を植えている。利用者が散歩時など成長を楽しみにし、肥料が足りないなどアドバイスされる。草取りや収穫できる利用者にはしてもらっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホームサンひまわり 虹(1階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・都市型として市街地に位置し、交通の便がよく家族や知人が訪問しやすい場所にあり、付近には県立短期大学や小学校、郵便局、銀行などがあり環境が良い。
- ・町内会に加入し地域の一員として地域行事や公民館活動などに参加し、さらに楽しみが増えるように取り組んでいる。
- ・医療連携体制により協力病院と24時間緊急対応ができ、看護師による健康管理のもと利用者は安心して日々過ごされている
- ・准看護師、歯科衛生士、介護福祉士、調理師、介護支援専門員、ヘルパー2級などの職員が協力して、利用者の健康維持や利用者本位の生活を支援している。
- ・生活空間が狭いので、利用者とのコミュニケーションがとりやすく、明るく楽しい生活ができています。
- ・足し算や引き算、音読、四文字熟語など頭の体操を楽しみながら行っている。
- ・食に対する満足感、入浴による清潔感などご利用者様に感じてもらえるように職員は常に努力している。